NO.86
2024/1/12

バンコク便り

１．はじめに 新年の挨拶

新年明けましておめでとうございます。昨年は山形県タイ友好協会（事務局：荘内銀行）の第 2 回訪タイミッションが 5 年ぶりに開催されるなど、山形県とタイの友好の絆が確実に深まった 1 年となりました。当行では、この繋がりを生かして皆さまのビジネスに役立つ情報の発信やタイとの相互交流に向けた活動を実施して参りますので、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

２．現地ビジネス情報（「METALEX 2023」レポート及び 2023 年の振り返り）

昨年 11 月 22 日～25 日にかけて、ASEAN で最大の工作機械・金属加工技術イベントである「METALEX 2023」がバンコクで開催されました。主催者発表では約 2,500 ブースが設けられ、来場者数は 98,686 人（昨年度 86,011 人）になるなどコロナ禍以前の規模に迫っており、2024 年は 2019 年以来の 10 万人来場に届くのかが注目されます。また METALEX のベトナム版である「METALEX VIETNAM 2023」でも来場者数が 15,224 人になるなど、当展示会は ASEAN で今後も大きな存在感を見せていくことになると考えられます。

注目すべきは、3D プリント技術、人工知能（AI）、スマートマテリアル（最先端機能性材料）の 3 分野が展示会内で特に強調されていた点です。国別の出展社数では中国が 213 社、次いで日本が 175 社、タイが 103 社、台湾が 88 社、ドイツが 71 社、米国が 52 社、韓国が 48 社となっています。近年では、EV シフト及びそのサプライチェーンにおいて必ず中国企業が話題となっており、今後の展示会においてもその動向や出展社数が注目されます。ブース出展した日本企業からは「自動化や省人化提案、生産性向上に関するニーズは従来どおりだが、コロナ禍後で活動方針が明確化し具体的な話をしたい企業が増えた印象がある」との声がありました。

2023 年のタイ経済関連のまとめとしては、GDP 成長率は、1.9%（1～9 月実績）にとどまり、年初の前年比 2.7～3.7%拡大との予測から大きく乖離した形となりました。その要因としては、世界経済全体の回復が鈍化し、タイからの輸出が低迷したことが大きく、1～10 月の輸出額は前年同期比 2.7%減となっています。また観光収入において、中国経済の不振により同国からの旅行者が想定したほどの増加につながらなかったことも成長率を押し下げた要因のひとつと見られています。一方で、国際機関の予想では 2024 年には外需と観光の回復が進むとの見方が有力です。昨年タイ国内では政権交代が大きな話題となりましたが、景気刺激策の効果次第で新政権の実力が問われるとの見方もあり、今後、その動向が注目されます。

３．現地トピックス（新商業施設「エムスフィア」オープン！）

12 月 1 日、タイの小売・商業施設運営大手ザ・モール・グループ社がプロンポン地区で商業施設「エムスフィア」を開業しました。プロンポン地区にはすでに同社による商業施設「エンポリアム」、「エムクオーティエ」がありますが、既存 2 施設の主な客層が富裕層であるのに対し、エムスフィアは価格帯がやや下がり、中間層をターゲットとしていることが特徴です。開業イベントも大規模に実施され、オープンから数日は大変な混雑となりました。またテナントには家具・インテリア大手の「ニトリ」、アパレル「ニコアンド」、鮮魚「魚力」といった日系を含む海外ブランドの進出も相次ぎ、タイ国内における小売業界の活気を象徴しています。

エムスフィア外観

【本件に関する連絡先】　荘内銀行営業推進部　地方創生室　軽部・齋藤　023-626-9019